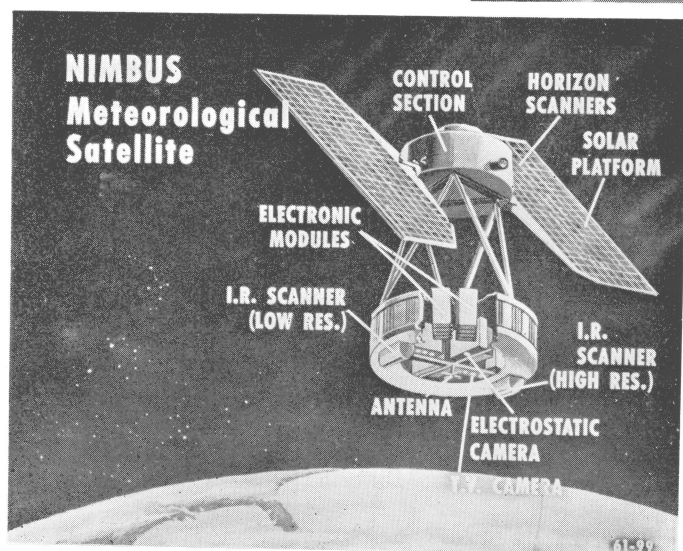
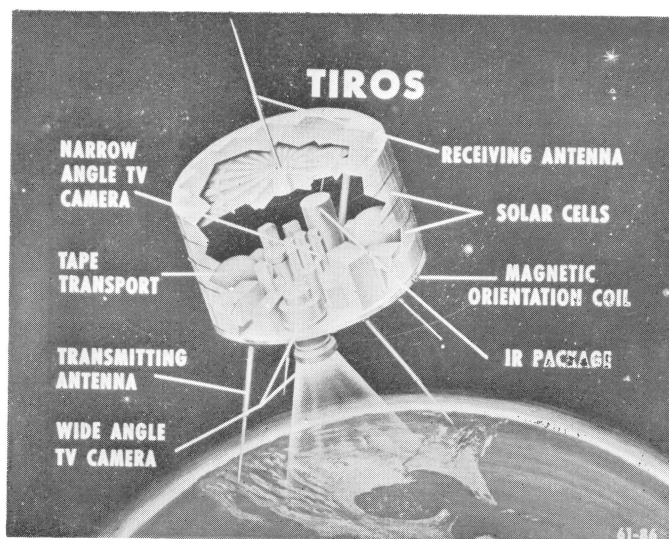


気 象 衛 星



気象衛星タイロスは1963年にも引続いて打ち上げられるが、1963年には更に新しい気象衛星ニムバスの打ち上げが予定されている。ニムバスは直径 140cm、高さ 260cm、重量 250~270kg、両翼のように見える部分の太陽電池によって、ニッケルカドミウム蓄電池を充電し、これを電源にしている。衛星の下面は常に地球の方を向く、カメラ 3 台、真下を向いているもの 1、両側を向いているもの 2 によって地平線から地平線までを撮影する。またタイロスに積んだものと同じ走査型の放

射計、夜間の雲の分布を観測するための分解能 2 km の放射計、熱収支を研究するための分解能 640km の放射計、太陽常数を測定するための器械を積んでおり、後には静電型タイプカメラ、スペクトロメーター、イメージオルシコンチューブ、レーダー等を積むことになる。ほぼ極軌道、地上 10000km、108分で地球を 1 周する。エアロスは目下開発中で赤道 3600km の高さに止って、50°N から 50°S 地域を常時監視する赤道上に 4 箇のエアロスを配置し、極軌道のニムバスと併用すれば理想的である。(鈴木彌幸)

